

鎌倉市観光基本計画推進協議会 第3回会議 会議録

日 時：平成24年4月16日(月) 午後2時から午後3時30分

会 場：鎌倉市庁舎2階 全員協議会室

議事の概要：

1. 開会あいさつ
小磯市民活動部長
2. 庶務事項
事務局宮下担当課長
配布資料の確認、会議の公開状況の確認

3. 議題

(1) 報告事項

- ①第2期鎌倉市観光基本計画中間改訂について
事務局)

第2期鎌倉市観光基本計画は、「観光を通じたまちづくり・人づくりによって市民や観光客が豊かな生活・観光を享受できるようになること」を目的とし、平成18年度に策定し、平成27年度までの10年間を計画期間としている。

この計画は、第3次鎌倉市総合計画の分野別計画として位置づけられており、他の分野別計画との整合を図りつつ実施されている。基本計画においては、3つの目標を設定し、その達成のために10の取り組み項目を定め、その上で具体的な活動をこれまで実施してきた。

第2期鎌倉市観光基本計画については、10年間の期間の折り返し地点である平成22年度から平成23年度にかけて中間見直しをすることとされており、そのため、まず、平成22年度において、鎌倉市における観光推進体制の改編を行い、「鎌倉市観光振興推進本部会議」を発展的に解消し、本日お集まりいただいているように、より機動的な組織である「鎌倉市観光基本計画推進協議会」とした。

平成23年度においては、基本計画本文の改定を行った。見直しにあたり、市役所庁内各課に対し照会を行い、意見を収集するとともに、この観光基本計画の推進のためのチェック機関である「鎌倉市観光基本計画進行管理委員会」において審議・検討を重ねてきた。また、前回の当協議会においても、関係の皆様からご意見をいただくべく議題とさせていただき、ご報告させていただいた。

これらによる検討の結果、「第2期鎌倉市観光基本計画中間改定」の素案を策定し、この素案をもとに、鎌倉市意見公募手続き条例に基づくパブリックコメントを平成23年12月28日から平成24年1月27日にかけて実施した。その結果、11の個人・団体から86のご意見等が寄せられ、中間改定の素案にこれらの意見による訂正を加えた。なお、これらのご意見については、お手元の資料2の「パブリックコメント」として取りまとめている。いただいたパブリックコメントによるご指摘のうち、本文の改正に反映させたものは、太枠で囲んだものとなっている。

こうした作業を経て、3月9日に開催した「鎌倉市観光基本計画進行管理委員会」においてご審議をいただき、別添の「第2期鎌倉市観光基本計画中間改定版」を作成し、庁内における決裁を経てこの度完成した。

それでは、今回の基本計画の改定内容についてご説明させていただく。今回の改定は、計画期間の中間期における改定であるため、全文改定ではなく、マイナーチェンジとし、現行計画の基本理念・骨格等については、これらをそのまま受け継ぎ、これまで進めてきた取り組みに加え、これまでの6年間の社会状況等の変化に対応させる新たな活動計画を盛り込むという造りとした。

計画の本文については、パブリックコメントにおいていただいたご意見により、観光

分野における世界文化遺産登録の位置づけの明確化や、「鎌倉らしさ」という語における寺社の存在の重要性について新たに触れることとした。

さらに、具体的な活動計画の追加・強化事項については、お手元の「変更ポイント」の図表にあるように、世界遺産登録を機会とした取り組みとしての「来訪者に対する世界遺産の意義・価値の積極的紹介」、新たな観光のかたちづくりとしての「着地型観光や観光プロモーション活動の実施」、観光客の安全・安心に係る「仕組みの整備と防災情報の事前提供」、今後の世界遺産登録後に増加が予想される「外国人の誘客活動」等について実施していくこととした。

お手元の冊子をご覧ください。まずは、2ページにおいて中間見直しの必要性・方向性について述べている。続いて5ページには、観光基本計画進行管理委員会による基本計画期間の前期の評価について記してあり、こちらにある「今後に向けての課題・提言」を基に計画の改定を行った。

また、本計画においては、目標とする指標を5つ設定している。11ページをご覧ください。まず、観光客の満足度では、これまでの目標値は80%であったが、これを85%と上方修正した。次に観光客数については、現状値以上という目標は変わらないが、ここ10年間では最大の入込み観光客数であった平成22年の1,949万人を基準とすることとした。さらに市内への宿泊客数の目標を35.9万人から40万人へと変更した。なお、海水浴客数については、今後の人口構造、レジャー志向の変化等を勘案し、90万人と下方修正を行っている。

続いて15ページにおいて、中間見直しの一環として、昨年度行った推進体制の改組について述べている。「鎌倉市観光振興推進本部」を発展的に解消し、より機動的な組織である「鎌倉市観光基本計画推進協議会」としたものである。

18ページ以降は、行政、観光事業者のみならず、市民、寺社、生産者、関係団体等の主体が取り組んでいくべき事項をまとめている。それぞれの主体が行うことが望まれる取り組みを上段に例示するとともに、それに関連する市の取り組みを下段にまとめている。

具体的な活動計画の追加・強化事項について例を挙げると、世界遺産登録を機会とした取り組みとしての「来訪者に対する世界遺産の意義・価値の積極的紹介」、新たな観光のかたちづくりとしての「着地型観光や観光プロモーション活動の実施」、観光客の安全・安心に係る「仕組みの整備と防災情報の事前提供」、今後増加が予想される「外国人の誘客活動」などを盛り込んだ。

以上が中間改定の内容となる。この改訂版第2期鎌倉市観光基本計画を基に、今後の鎌倉市における観光振興を図っていくため、市民の皆さん、市内の関係者・関係機関に周知を行い、関係の皆様による鎌倉の観光振興に対するご協力をお願いしていきたいと考えている

②訪日外国人旅行者の受入環境整備事業について 事務局)

「訪日外国人旅行者の受入環境整備事業」の資料をもとに説明

観光立国の実現は、これからの我が国の経済社会の発展に不可欠な課題となっている。したがって、我が国としても、観光立国の推進を成長戦略分野の一つとしているところである。しかしながら、今後、我が国においてはますます少子高齢化が進み、かつ、産業構造の変化、国民の余暇活動の志向の変化等により、国民による観光活動は縮小していくことも有り得る。

そのため、我が国が観光立国として成り立っていくためには、海外からの誘客、つまりインバウンドの振興を図っていくことが必要不可欠である。ゆえに、観光庁を筆頭にビジット・ジャパン事業を実施し、プロモーションを行うことにより、海外からの誘客を図っているところである。

インバウンドの振興のためには、海外市場におけるプロモーションと並んで、国内における外国人観光客の受入環境の整備が重要になる。しかしながら、我が国においては、この受入環境の整備が遅れている部分が多々あり、これへの対応が喫緊の課題である。

そのため、観光庁において、訪日外国人旅行者の受入環境整備を重点的に行う地域を指定し、そこで、国・自治体・民間事業者等が連携し、訪日外国人旅行者の受入環境の整備・充実を総合的に推進することにより、これを範として全国的に訪日外国人が安心して快適に、移動・滞在・観光することができる環境の整備につなげることとしているところ。受入環境を整備することにより来訪者の満足度を高め、これにより、リピーターの増加を期待するものである。

続いて2ページは、訪日外国人の戦略拠点と地方拠点の一覧となっている。ここでいう戦略拠点とは、現状多くの訪日外国人旅行者が訪問している地域であり、地方拠点とは、今後訪日外国人旅行者の増加が見込まれている地域ということになっている。鎌倉市は、本年度新たに地方拠点として事業採択された。

3ページをご覧ください。では、具体的には何を行っていくかということであるが、真ん中より下の部分をご参照いただきたい。鎌倉市は地方拠点とされているので、国との連携により、鎌倉において最も必要とされる受入環境整備事業を実施することを通じ、当地の受入環境の向上を図ることとしている。また、現地における受入環境を整備することと同時に、海外に向けて事前に旅行に必要な実践的な情報の提供を行うことにより、受入環境が整っていることを周知することとしている。

続いて4ページでは、具体的に鎌倉においてどのような受入環境整備を行うべきなのかを述べている。まずは、地域において最も必要とされる受入環境の整備についてだが、これについては、ガイドマップ・パンフレット、地図、案内板、また、Webサイトの整備が挙げられる。確かに実態として、首都圏に位置し、日本の文化歴史を感じることのできる地として、鎌倉には多数の外国人観光客が訪問している。しかしながら、パンフレット・地図・ホームページ等については、他地域と比較すると甚だ心もとないものであると言わざるを得ない。

そのため、まずは、観光関連産業等を対象とした「受入環境整備水準評価」を鎌倉において実施し、また、外国人旅行者へのインタビューを行うなどにより、何が鎌倉において欠けているのか、または必要とされているのかを見出す作業が必要となってくる。

そのうえで、鎌倉に必要とされる受入環境の整備事業を実施し、これにより制作された地図やWebサイトに「旅行に必要な実践的な情報の提供」ということで、ATMや公衆無線LANや地域における共通乗車券等の情報を提供していくこととしている。

続いて5ページは、事業の大まかなスケジュールを記載してある。この3月に鎌倉市は地方拠点として観光庁の指定を受けた。実際の受入環境整備事業は、7月から実施されるが、この4月、5月の両月において鎌倉市内の受入環境整備水準の評価の実施を行い、この結果をもって本年度の事業として何が適切かを見出し、それを観光庁に申請し、7月より観光庁が指定するコンサルタント等の事業者が実際の受入環境整備事業を行うものである。つまり、例えば、鎌倉市内においては英文によるバスマップ作りを行うことが外国人訪問客の回遊性につながるということが見出されたのであれば、これを観光庁と契約したコンサルタント等の事業者がその製作に当たり、その後、それを配布することにより外客の回遊性が高まったかどうかの検証までを今年度内に行うというものである。

また、平成25年度以降もこの事業は行われるため、複数年における事業設計をあらかじめ立てておくことが肝要かと思われる。さもなければ、本年度一回をもって鎌倉市の事業は終了ということにもなりかねない。

6ページでは、受入環境整備水準の評価チェックの方法について記載してある。評価の項目としては、左側に掲げており、1～13までの項目がある。1～8の項目については、市の観光商工課においてその現状を把握することするが、9～13までの公共交

通機関、宿泊施設、商業施設、観光施設・娯楽施設、飲食施設については、個々の事業者さんのご協力を得てチェック表の個票を作成いただき、これを当方にてセクターごとに取りまとめるということになる。

個々のチェック表について、参考例として宿泊施設の個別チェック表についてご紹介申し上げることとする。設問は非常に簡単で、かつ、おおむねチェック欄に印をつけていただければそれで済む形式となっている。Webサイト、予約法、施設表示等の項目において、当てはまるものをチェックしていただく。もちろん、個別に頂いた情報は、市役所において厳重に保管し、個々の情報については外部に漏れることはない。

調査の対象は、当該セクターの関係事業者の方全員に対して行うということは考えていないので、例えば、観光協会さんや旅館組合さんに加盟していらっしゃる方々を対象に調査を行わせていただくことを考えている。

今後、市役所から個々の事業者さんに評価シートの送付をさせていただくこととしたいので、その際には、当協議会会員である皆様の傘下の会員に対してのご協力依頼のほどよろしくお願ひしたい。

なお、公共交通機関については、本調査スキームによると「外国人観光旅客の旅行の容易化等の促進による国際観光の振興に関する法律」第8条に基づき指定された「情報提供促進措置を講ずべき区間」のみを対象としているところから、今回の調査においては、個々の鉄道、バス事業者さんに対しては質問票をお送りすることはない。

評価スケジュールについては、ここに示したとおりに進めていきたい。

会員)

英語版のパンフレットを作成されるということであるが、観光協会で貸出ししている聴き旅は非常に評判がよい。現在は日本語しかないが、外国語版ができれば重要なツールになると思われる。

会員)

英語版を制作しているが、中国、ハングルとなると費用もかかってくる。費用面での解決策が出てくれば制作へとつながると思う。

使った人の評価は高いが、聴き旅というツールが認知されていないので、今後は多くの方に利用していただきたいと考えている。

事務局)

訪日外国人受入整備事業は、観光庁の事業であるが、地域の事情が配慮される。一番足りないもの、絶対必要なものをお話しし、コンサルに具体策をいただいてその整備が図られるものである。是非このように改善された方がいいというお話があったら、市役所にお伝え頂きたい。

会員)

鎌倉市の観光商工課が主体となって評価、チェックするのか。現状を誰が評価して、誰が話をして、主体となるのはどこか。

事務局)

取りまとめは観光商工課が行う。チェックシートに基づく項目については、事実が出ると思うので、特にそこでは何か加工することはない。最終的に弱い部分が出てくると思われるので、それを補完するような事業の実施を考えている。

市民活動部長)

最終的には観光庁の事業なので、観光庁が実際に行った調査を基に評価して、鎌倉に

はこのような部分が必要だという結論をいただいて、今後の色々な政策に役立てて行く。費用を負担していただけたところはいただいて、充実を図る。あくまで市は、冒頭で申し上げた通りお手伝いという訳ではないが、形としては、主体が観光庁で市はそれに対し手足となって動く部分ということになる。

会員)

今現在は、現状の報告は市がして、今後、観光庁が現状はこうだからこうした方がいいと言って、このような事業をやりなさいといって何か事業が来るようなイメージなのか。

事務局)

実際には、観光庁が指定するコンサルタントのような事業者が決まる。その事業者と国、鎌倉市の三者で話合って、どのような事業が一番適切であるか吟味した上で事業を進めて行く。事業自体は2,500万円位の事業規模だが、お金が直接鎌倉市に入るのではなく、あくまで観光庁の直轄事業としてコンサルタントに発注して、そのコンサルタントの方が、例えばマップを作るのが良いとあればマップを作り、そのマップを鎌倉市内で配布する。その上で観光客の回遊性が高まるとかを検証する。鎌倉での実証実験みたいなものになる。

会員)

鎌倉遠足みたいなものか。

事務局)

それとは違う。そのような外国人向けの着地型観光の取り組みをしている地域もある。

市民活動部長)

鎌倉に外国人観光客が来ていただくのに何が足りないのかをそこで把握する。把握した結果、例えば英語版のパンフレットの充実が必要という結論が出たら、7月以降にそれを実際に作って、そのパンフレットで観光していただいて、それが正解だったのか、本当はもう少し異なったパンフレットが必要だったのかという事を検証する。平成25年度以降もそのような事が出来るという事になればそれ以降も続けて行く。最終的にはこれが鎌倉の外国人観光に必要であったら、最終的に市や観光協会と一緒にパンフレットの整備を行うことになる。

会員)

3月11日に大船の武道館に行われた「武士の都鎌倉」という古武道の演武会があって参加したが、四分の一位の人が外国人だった。鎌倉というと武士のイメージで、武道をひと見たいと外国人の方が多く来ていた。居合道や薙刀、合気道等すごく人気で、まさに武士らしい武道がお披露目出来たと思った。一年に一回しか行われないので、非常に外国人の目には魅力的であったのではないか。このようなものを観光客にも目に触れる機会があったらいいのではと思う。

会員)

外国人の受入環境整備事業は、世界遺産との関係で行われるのか。

市民活動部長)

直接関係ないが、世界遺産登録は、観光のためとは称してないが、観光も一つの要素として加わっている。市民活動部は、観光を所管する部でもあるので、世界遺産登録を見据えて、何が必要かと考えている。例えば、トイレがもう少し良くなった方がいいと

ということがあり、これは実施計画事業に挙げているが、その一つとして外国人観光客が来た時の対応をどうするかと事前に考えておく必要があって、たまたま観光庁でこのような事業があったので、鎌倉でやらせていただきたいと手を上げ、採決されたという経緯になる。

会員)

私ども鉄道会社では、世界遺産に登録されることに大いに期待している。観光客が増えることでどのような対応をしているのか、鉄道会社として模索している。鎌倉市の観光行政と歩調を合わせないといけないと考えているが、登録を来年に控え、観光行政をどのように計画しているか聞きたい。

市民活動部長)

正にそれするのがこの会議と考えている。今回は、二つのテーマを市の方で提案したが、次回以降、市からも提案したいと思っているが、皆様方からもそのような議題をご提案いただいて、鎌倉の世界遺産に向けての観光をどうするのか、それについても話あって行きたいと考えている。基本的なところは、今回の基本計画の改訂の中にも少し盛り込んだが、これが行政の計画で、行政としてはこれで進めていきたいと考えているが、具体的には行政だけでは決めることが出来ないのので、皆様方と一緒に考えていきたい。

次に、3番目の議題の情報交換ということで、この会議では、行政が提案するだけでなく、皆様方から提案をいただいて、議論をして進めて行きたいと考えている。それぞれの主体で鎌倉の観光について、今年度もこれから計画している部分や将来的な事も含めまして、意見交換したいと思っている。ご自由にご発言いただきたい。

会員)

先週から7日から昨日までの一週間、鎌倉まつりが実施された。パレードに21万人と静の舞に3万8千人、流鏝馬に3万人のお客様に来ていただいた。皆様方のご協力があり成功したと思っている。この場を借りてお礼を申し上げたい。

会員)

例年行っている、鎌倉ビーチフェスタを5月19日、20日に開催する。この2日間海で海の楽しさを市民や観光客の方楽しんで一日浜辺で楽しんでいただく催しで、実行委員会形式で毎年実施している。市役所と観光協会、その他の団体にもご協力をいただきながら、商工会議所が事務局として実施している。お時間が有る方は是非ご覧いただきたいと考えている。

会員)

横須賀、鎌倉、三浦、葉山、逗子を所管している。情報提供ではないが、私どもの方も観光に力を入れなさいと黒岩知事から言われており、色々取り組みをしている。今年度の事業としては、観光客のニーズ調査を予算化していて、雇用対策用の予算と合わせて、失業者を雇用してヒアリング調査を各種行うことを予定している。詳細が決まったら市へ情報を提供し、またご協力をお願いする事になるかと思う。実施は5月から12月までの間、イベントなども含めて実施していきたい。何か是非ここを聞いて欲しいものがあれば、調査項目の中に入れる事もできると思っている。

県としても、先ほど外国人誘致のお話があったが、世界遺産登録も控え、黒岩知事からは、横浜、鎌倉、箱根が神奈川県にあり、これは海外に向けて大きく自慢が出来ると言っている。さらにプラスしてもう一つ作りたいとも言っている。今後も世界に向けて発信して行きたいと海外プロモーション事業を予算化していく予定だ。市とも協力しな

ら、海外に発信して行きたいと思っているので、合わせてお伝えさせていただきたい。

会員)

昨年と比較しても仕方ないので、今年になって一昨年と比較しても106%強のお客さんが4月1日から来ている。鎌倉まつりのパレードの日は、12万7千人、一昨年は8万5千人だった。流鏝馬の日は、一昨年は、8万2千人だったが、今年は10万9千人の方が来た。大変多くの方にお越しいただいているので、駅の対策も考えなくてはいけないと考えている。また、6月に横須賀線が大船・横須賀間が開通して123年になるので、それに合わせて、鎌倉だけではないが、何かやって行こうと思っている。

市民活動部長)

昨年実施した茨城の方から鎌倉に来ていただく企画は、今年もはあるのか。

会員)

今年も普通の団体列車をやる予定。

会員)

私どもは、今年江ノ電の鉄道開業110周年、バス開業85周年を迎える。すでに事業年度が始まっているが、2012年度いっぱいを使って、イベントを実施してPRに努めたい。皆様にご協力を頂く事があるかと思うが宜しくお願いしたい。

会員)

昨年40周年であったが、特段大きなイベントはなかった。年間乗客1,000万人を維持していきたいが、80万人位減少していて大変厳しい状況だ。基本的には、大船から乗車していただかなくてはならず、大船を中心とした考え方をもっている。大船地域でも何か企画をしていただければと思っている。

市民活動部長)

市の観光としては、一昨年、昨年、着地型観光というのを実施して、観光客の皆様にあまり馴染みのないスポットだとか、時間帯、季節などをターゲットにして、新しい観光を作り上げた。大船地域も新しい観光資源として入っている。今後も話をさせていただくので宜しくお願いしたい。

会員)

鎌倉まつりのパレード当日、一番問題と思ったのは、市内の渋滞で、運ぶべきお客さんは沢山いるが、鎌倉・八景線では、最大の遅延が1時間30分で、これが一日中発生している状況であった。一時は車庫にバスが無い状況になってしまった。このあたりを今後どうするか、私どもも頭が痛いところだ。

市民経済部長)

市には交通計画課があるので、よく話し合っていきたい。鎌倉の観光にとっても重要なテーマだと思っている。

会員)

私どもの協会は、先日20周年を迎えた。市内の小中学校のガイドに関しては無料としている。なかなか行事の関係でご利用が少ないのが残念であるが、皆さんのお子さんがいたら、学校にお声を掛けていただければと思っている。

残念だが、関連する鎌倉市の取り組みの中に、小学生用のパンフレットが有償で10

0円とある。私どもは、群馬県にセールスをしていて、基本的には、新宿ラインを利用できるところをボランティア中心に活動している。100円でも結構負担になるので、この辺のご厚意をいただければと思っているので宜しくお願いしたい。

事務局)

今後、具体的な内容等お聞かせいただき、相談させていただきたい。

会員)

先ほどのバス事業者と同じで、鎌倉市内に人が沢山来て頂くことは本当にありがたいが、沢山の人が車できていただいているために起こる渋滞、最近の日曜は、平日もそうだが、駅にお並びになる時間がすごく長くなっている。タクシーも全部動かしているが、戻るのに時間がかかり、お客さんを待たせてしまっているのも、このような状態を解消できれば、市内の人の流れが変わってくるのではと思う。

もう一つは、観光客が周りを見ながら歩かれるので、道路にはみ出してしまうような危険なところが気になる。この辺も解消できればと思う。

会員)

たくさん観光客にお参りしていただきありがたいと思っている。土日の混雑解消の話があったが、お寺でも土日に観光客が多いので、平日に来ていただけるようにしていきたい。皆さんに、お寺の方にこのような事が出来ないかというリクエストと、お寺がこういうことをしたらどうかということにはギャップがあると思う。いろんなアイデアをいただきたい。

先日、鎌倉市の国宝館の方をお願いして仏様の解説をしていただいた。前半は講和で、後半は美術的なお話をしていただいた。専門的な話であったが大変好評で、何度も鎌倉に来ている方も多かった。お寺にはたくさん美術品がある。鎌倉全体を美術館、大きなテーマパークと考えて案内できればと考えているが、具体的にはアイデアを募集しているところだ。観光商工課とも歩調を合わせていきたい。

市民活動部長)

着地型観光を昨年、今年と取り組んだが、かなり深いものを望んでいる観光客が多い。このような取り組みで、観光消費額が上がっているところもある。これから実現していきたい。

会員)

鶴岡八幡宮では、特にアジアの参拝客が増えている。英文のパンフレットやホームページにおいても外国からのアクセスが増えている。各国の大使館と頻りに連絡を取り合っていて、参拝者の動向や何を望んでいるかなどの情報交換をしている。このような資料もあるので、このような場でお示しできればと思う。とにかく環境整備が重要だ。境内の樹木、参道など美しい鎌倉を一番に考えて、また来てみよう、またお参りしてみたいと思ってもらえるような環境を整えることが第一歩だと考えている。

会員)

夏以降、ユネスコのイコモスという現地を調査する方が来訪する。行政の計画だけでなく、市民の理解、協力も問われる。世界遺産を自分のものとして考えていく必要がある。例えば、寺社を点だけではなく、面として捉える必要がある。鎌倉駅から見ただけならばほとんどが緑の山であるが、これを保存している。このように緑を守りながら住みやすい都市にしていく。もう一つは、国際観光都市として鎌倉のまちをみなすこと。案内板もほとんどの構成資産に設置された。外国の方が来ても、私達や行政、寺社もと

もにその良さを理解して、後世に歴史遺産として残せるまちづくりをしていきたい。皆さんのお知恵をお借りして、世界遺産に相応しいまちにしていきたい。

市民活動部長)

観光基本計画のなかで、宿泊数を増やそうと目標を掲げていたが、具体的には謳っていないが、世界遺産の関係で言えば、今までは日帰りであったのが、宿泊をしてじっくり見ていただこうと考えている。この点については、いかがか。

会員)

旅館組合には、13施設加入している。週末はほとんど満室になる。平日の稼働を伸ばしていかないと年間40万人には難しい。具体的に何ができるかは分からないが、ライトアップとか遅くまで空いているお店でのイベントなど、仏教会や神社の方と一緒に考えていかないといけない。

旅館組合では、外国人のお客は増えていると聞いている。今までは、昼に観光して、東京や横浜に宿泊する。鎌倉には一日しかいなかったが、今は小さい民宿、ゲストハウス中心に外国人宿泊者が増えている。

会員)

インバウンドについては、インバウンド委員会というものを組織して、年6回ほど旅行会社の方と会議をしている。また、現地に行って実情を見たりもしている。着地型観光の話があったが、旅行業界も今まで発地型が多かったが、これからは着地型で地元の良さを業界として発掘して、官民一体となって観光客に伝えていきたい。国内だけでなく世界的に着地型観光商品が利用いただけるような仕組みを作っていきたいと思っている。

会員)

歩道の関係だが、地域に住んでいて歩道が大変せまくて車道との事故が多い。歩かれて観光している方が多いので、何とか歩道の確保、歩道を広げる推進をお願いしたい。

会員)

観光基本計画改定にご協力いただき感謝申し上げたい。前半の5年位は、鎌倉市の観光政策の体制づくりだとか、従来できていなかったことを進めるのが計画の焦点だったが、このあとの4年間は、国際観光だとか新しい取り組みをしてほしいと考えている。

先ほど平日の観光の促進や外国人の誘客促進の話があったが、我々の大学としても何かできることはないかと考えている。一つは、我々は年に何回か国際学会がある。学会は、その誘致なども有効と思われる。1週間くらいの期間で、しかも平日に開催している。鎌倉市内は大学の数が少ないが、周辺自治体にある大学を利用して、平日あるいは外国人観光客の誘致を進めていただければと思う。

また、このような事を進める時、先ほど観光庁の受入事業の説明があったが、我が国の観光施策の一番弱いところは、データに基づいて政策を作って評価していく事だが、国の事業を使うことだけでなく、鎌倉市の施策においても、前半の4年間でできなかった一つは、観光関連のデータを集めて、それに基づいて評価することだ。例えば、観光の経済波及効果などがある。日本全体だと難しいが、今後鎌倉でもこのような事ができれば、日本、世界に情報発信できる一つのツールになる。

交通関連の話があったが、渋滞対策など交通と観光の施策について傘を被せる議論ができればいいと思う。

これまで2回開催された災害時観光客対策部会だが、震災以降、観光防災が注目されている。一日平均すると5万人位が鎌倉を訪れていることになるが、鎌倉の防災行政は、

居住者や市内で働いている方の防災対策にとどまっている。1,800万人の観光客を除いてなかなか防災行政はできないと思う。こうした取り組みも他の自治体に先駆けて取り組んでいただきたい。

市民活動部長)

災害についてお話があったが、警察としていかがか。

会員)

道路にしても、施設にしても、人数が増えれば増えるほど危険性が増えていく。昨日も流鏝馬には、たくさんの観光客が来ていたが、大きな事故もなく終わったことはよかったと思う。このような行事は、事前の協議が重要だ。今後も関係機関と事前に協議して進めていきたい。道路については、前日のパレードなどをみると、キャパシティをオーバーしているように感じる。すぐに物理的に道路を広げることは不可能なので、主催者と協議しながら対策を講じていきたい。

また、津波については、これから取り組まなければならないことだが、関係機関と協議して進めていきたい。

4. その他

事務局)

先ほどから、観光客の防災対策のお話があったが、この協議会の部会のなかで、全市民的な観光客の防災体制整備、あるいは災害発生時の対応についていろいろご教示頂きながらまとめていきたいと考えている。

すでに本格的な観光シーズンに入っていて、鎌倉まつりを皮切りに各団体のイベントの紹介もあった。県からも新しい津波浸水予測が発表されている。各団体でイベントの開催にあたっては、くれぐれも地震や津波の対策として、あらかじめ避難経路の案内や当日の避難誘導體制について考慮いただきたい。

事務局)

最後にツーリズムセミナーin鎌倉という資料をお配りしているが、日本観光振興協会、鎌倉市観光協会の主催で6月1日に鎌倉生涯学習センターで開催する。世界遺産登録を控えた鎌倉において、ツーリズム産業人の育成の場として開催されるセミナーなので、皆様のご参加とご周知をお願いしたい。

次回の協議会の開催は、決まっていないが、皆様から希望があれば随時開催していきたい。

市民活動部長)

世界遺産に向けた取り組みは、行政としても足りない部分がある。皆様と一緒に取り組んでいきたい。次の当協議会で議題としていきたい。

閉会